

# めだかの学校だより

平成 29 年 2 月 1 日  
第 95 号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL: 0539-62-6691

## 校長訓話

第九十五回 校長 中村やす代

大袈裟ではなくドキドキして眠れなかった昨年12月2日(第94回めだかの学校開校日)の夜。次回の校長指名を賜り、近頃平穏だった私のハートがハードにザワつく。何しろ、小学校の時から「夏休みのとも」は7月末には終わらせないと落ち着かないような小心者の私にとって、大勢の前に立つだけでも緊張するのに、「校長訓話」とは恐れ多くて、いったい何を話したらよいのか。きつと今からあれこれ思い悩んだまま3月3日の当日を迎えるに違いない。今年は春から超刺激的。

しかし、こんなに衝撃を受けたのには訳がある。それは、平成25年12月(第82回)に入校して以来、毎回給食当番をしているので、さては校長免除されたかと安心していただけ。そこに不意を突かれて指名され、私の勝手な思い込みが衝撃を倍増させた。まったく、いつものことながら見通しが甘い。と、ぼやきながらも真面目な私は先代の方たちの「めだかの学校だより」校長訓話を読み返す。嗚呼、さすがに皆さん、しっ

かりした文章を書いていらっしやる。うん、私にはとても書けそうにないので、ここは背伸びをせず、自己紹介とする。

今から去ること〇〇年前、引佐郡金指(直虎で話題の井伊谷の隣村)で第一子長女として誕生、以下兄弟無し。3歳で浜松市都田町に引っ越して来た後、現在も都田在住。自宅は理容店。家族は、父(人工透析に通いながら頑張る82歳の現役理容師)と娘①(親孝行の独身〇し)と私とで、各世代1名ずつの最小限三世同居。母(84歳)は一昨年前の脳梗塞により特養ホームへ単身赴任中。娘②は一人暮らし。私の職業は、平成25年7月からあこがれの専業主婦。それまでは、大学卒業後、障がい者施設で管理栄養士として勤務。途中(28歳から34歳)家庭に入り結婚、出産、理容学校に通いながら闘病中の夫の介護をするも死別(享年34歳)。そんな目まぐるしい日々を経て、平成4年、35歳で浜松市社会福祉事業団に新設された「浜松市発達医療総合福祉センター」に管理栄養士として再就職。定年まで勤めるつもりが、自身の体と家庭の事情により、平成25年6月末に早期退職。以上、とにかく今も今まで退屈しない私の毎日。

月並みな言葉だが、両親や子供たちや回

りの人たち、そして早々に天に昇ってしまったような慌て者だが、きつと空から見守ってくれている夫に感謝。  
ところで、こんな日常をそれなりに楽しんでる私が最近気付いたことは、いつも歌を歌っていること。声に出すばかりでなく、心の中でも歌っている。歌は心を癒してくれたたり元気づけてくれたり、まさにいつでも一緒にいてくれる素敵な友達。おまけに、「健康に良い」とか「老化防止」という言葉に弱い私は、聞きかじりの情報を試しに、何もなくても声を出して笑ってみた。そして、もつと楽しくなった。どうやら、私は小心者だけど、好奇心旺盛な脳天気のようなのだ。



## めだかの学校伝言板

——第95回めだかの学校を開校するので出席しなさい。  
校長/中村やす代  
教頭/田村進治  
用務員/岩瀬進哉  
給食係/大久保陽・村木謙弼・石野省三・田村進治  
中村やす代・牧野久子・大谷香代子・今村純子  
山中幸子・渡辺三ツ子(チーフ)  
※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを!

開校日/平成29年3月3日(金)6:20PMより  
受付/大場敬子・大橋町代・小澤和香子・斉藤昭(後見人)  
24期通年テーマ:『素朴ともみえるひとつひとつの行動が未来へと広がっていく』今回のテーマ:『3月3日はひな祭り。3人官女が繰り広げる未来へのバトン』

- <時間割>
- 1時間目(40分) 社会 総合学習(トーク形式?)  
今村純子 先生 大島たまよ 先生  
「上巳(じょうし)の節句とは…」
  - 2時間目 音楽  
西川裕子 先生「お笑いヨガとボイストレーニング」
  - 給食の時間~3月3日は「ひな祭り」ひなご膳?~
- 9:30閉校

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」  
TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

# めだかたち

## ■今こそ！報徳の教えを学ぼう

小学校の校庭などで見慣れた「二宮金治郎像」。第1号はお隣の愛知県豊橋市の前芝小学校の像で大正13年に造られている。今では座った像ができた、本を読みながら歩いての像と言われたりしているが、実は一番大切なのは1歩前に足を踏み出していることだ。

二宮尊徳（金治郎）は現実に生きることが最も大切で、「至誠」というのは、まっすぐに現実と向き合うことで、像の踏み出した足はまさにその1歩である。そして、一生懸命勤め、「勤勉」、無駄のないよう自分の限度「分度」をわきまえ、他に剰余を譲っていくことで、はじめて人は物質的にも精神的にも豊かに暮らすことができるのだ。

この「報徳の教え」は静岡県に実に深いゆかりがある。二宮尊徳は小田原の生まれ、幼くして父母を失うが、あの像のような学・勤勞し、生家や小田原藩、桜町を立て直す。二宮尊徳の行う農村復興は各地で知られるようになり、遠州にも江戸時代末期にこの教えが伝えられる。尊徳翁に直接面会した遠州七人衆により、遠州では報徳結社が盛んとなり、その後、大日本報徳社が設立され、全国の報徳運動の中心となっていく。

そればかりか遠州では農村復興であった報徳の教えが商業、工業、金融業と取り入れられ、産業振興が進められていく。信用金庫や農協のルーツは「遠州」にあり、やらまいか精神の根底には報徳の教えが

あるのだ。とかく時代遅れの教えであるように思われがちだけれども、実は、日本の多くの優良企業の経営理念にこの「報徳の教え」が取り入れられている。今こそ「報徳の教え」が見直される時であると私は考えている。（村松達雄メダカ）

## ■わらび座ミュージカル「KINJIRO」5月から全国公演へ

わらび座が5月から報徳社の本部がある掛川市を皮切りに全国公演へ入ります。磐田市では30年2月11日に、小中学生を対象にした演劇鑑賞会を検討しています。めだかの学校もなんらかの形で協力していきたいですね。（バラメダカ）

## ■富山へ行こう！第15回全国まちづくり交流会 in 富山

全国の元気な仲間が集う全国まちづくり交流会。第11回は森町で行われ、早4年が立ちますが、今年は富山で開催が予定されています。日時は9月8日（金）〜10日（日）会場は「ホテルグランテラス富山」です。

富山には野入さんという元気なおばちゃんがいっぱいいます。今回がこの野入さんがリーダーになって「まちづくり女性（おんな）」が変える・女性（おんな）で代わる！」をテーマに2泊3日の交流です。8日の夜は前夜祭、9日は講演会や分科会、そして、夜は大交流会、10日は富山型デイ施設めぐりや引き込みり事業所の見学なども予定されています。

費用は現地交流会（宿泊含む）で2万円程度、10日の「富山を知ろう」ツアーが約1万円を予定しています。詳細は決まり次第お知らせします。皆さん、日程を入れておいてくださいね！（村松達雄メダカ）

## 「人・ひと・ヒト」だより

今年も沢山の人から年賀状を頂きました。その中からほんの少しだけご紹介。

●メダカ一期生の引佐町の石野省三メダカ。絆に期待しましたがグローバル社会は情報だけの繋がりで身勝手な集団が目についで、無駄な攻防が多かったと昨年を振り返りつつ、歳はとりたくないがとりました。焦らず・怒らず・少しの好奇心で、と今年の抱負。

●横須賀のお祭り男、鈴木武史メダカは、年が明ければお祭りの季節到来です。遠州横須賀祭り、今年は4月7・8・9の三日間。親たことない人は是非、と。

●磐田市の大久保陽メダカは、昨年夫婦で栃木県のフラワーパーク巡り。3泊4日850km自身の運転で、という元気な今年80歳。

●島田市で農園経営の池谷俊裕メダカ。農業は「見えないものを観る力。聞こえない言葉を聴く力」植物に対する「気付き」多き年で有りたいと深い内容。

●森町の天宮神社舞臺に力を入れ、鈴木藤三郎関連の地縁を広げている村松達雄メダカ。今年もフットワークよく人脈を広げてゆく予定。

●静岡のマラソンランナー高橋俊光メダカ。今年、東京マラソンに当選！今年も走る年になりそうです。

●いつも愉快な浜松市の中村明男メダカ。「音楽・版圖・テニスと一日一日充実した積み重ね」が彼の元気の源ですね。

●今年7週目の酉年を迎えるというのは、磐田市の年男、小林佳弘メダカ。昨年暮れから「遊行塾・ふるさとの昔話を楽しむ会」をはじめました。磐田市見付の報徳社で毎月第2土曜午後2時から開催中です。また、今年も本を出版予定。まだまだ

だ活躍は続きます、と。

●森町の天野智加志メダカは年賀状で3年前から始めた俳句を披露。森町の舞臺三句。「夜桜や群青の獅子光舞う」天宮神社二段舞臺。「風薫る舞臺色香たをやかに」小國神社古式舞臺。「山車遠くなりて相舞ふ優壇獅子」山名神社天王祭舞臺。

●今春に市議会議員の退任をしたのは磐田市の小野泰弘メダカ。次は何をするのか期待ですね。

●浜松市の田口重孝さん。行燈作りを始め、たそうで美しい作品の写真を添えて。

●横浜市の山根圭二メダカ。いつも楽しい話題を提供してくれま。今はお孫ちゃん応援団長をやっているそう。

●静岡新聞朝刊の四コマ漫画「ゴンちゃん」の作者、歌って踊れる漫画家を目指している東京都のかまちよろろメダカ。今年6月に先生をやってくれます。

●浜松市の古橋利雄メダカ。奥方の実家の家紋が今年始まったNHK大河ドラマ「女城主直虎」と同じである。

●ことがわかり、今年からは女城主に逆らわぬよう日々を送るそうです、と。

●「夢に向かって鳥のように羽ばたく」と達筆な便りは浜松市の池田誠二郎メダカ。

●「たまには大声出してみよう。たまには深呼吸してみよう。細胞が甦るよ。人間は血流だ！」と威勢のいい鶏の絵とともに加藤修一メダカ。ますます忙しい毎日のよう。FMハロー毎月第4月曜18:40、SBSラジオ毎週月曜15:40に生放送出演中。

●毎月手書きの「ひさかた風土舎通信」を発行している、飯田市の長谷部三弘メダカ。八十路の上り坂、今年メダカの学校に出席したい。

●フラワーパークを早期退職して20年、浜松市の加茂光廣メダカ。20年間をしみ

じみ思い返す歳であるようです。

●昨年は長年営業してきた「越後屋酒店」を廃業したと豊橋市の金子芳美メダカ。毎日が日曜日を楽しんでいるそう。1泊2食付きの金子家庭訪問(無料・お土産歓迎)はいかが?とご案内が。

●磐田市の伊藤英雄メダカ、「而今」を胸に今年も工夫して農作業を続けられるそう。

●中日新聞東海本社の報道部長から、中日新聞名古屋本社放送芸能部に異動した名古屋の日比野雅彦メダカ。学生以来のゆっくりした年末年始をすごされたそう。一度頭をカラッポにして再起動、だって。

●磐田市の斉藤昭メダカ。磐田の高台から見る富士は空気が澄んでいる寒い朝。優雅な姿、昨年の世の中の動きに対し微動だにしない、この姿教えられます、だって。

●小山町の溝口久メダカ。一昨年9月から始めた「ふるさと納税」23億円もの寄付を頂いて、国登録文化財の森村橋を明治39年のアールヌーボの装飾ある復元工事に着手、いろいろやりませ、遊びにきて、だって。

●いつもメダカの便りの原稿編集集をしてもらっている浜松市の間淵亮太メダカ。今年1回は1回ぐらい発行日に便りを出せるように!がんばります、と。スママセン:原稿早く出すように心がけます!

他にも東栄町の伊藤静男・公子メダカは学校になかなか出席できないので寄稿しますと。浜松市の藤波公子メダカ・藤枝市の小嶋良之メダカ等、皆さんありがとうございます。昨年・一昨年特別教師でお世話になった静岡市の花井孝メダカ、習志野市の市原美メダカからも元気な新年のご挨拶を頂きました。また、懐かしい元メダカ生からの便りも年賀状ならでは。

●静岡市の米田寛元メダカは人間ドックで「体重は減っているが胸囲は変わっていない」と言われ、今年は胸囲の改善に努める覚悟、と。

●浜松市の佐野文子元メダカは、「主人は野菜作りには、ご本人はダンスに夢中!、だって。

●長久手市の横田浩臣メダカは、今年後期高齢者に仲間入り。読書の時間を増やしたいと、遠出を控え近縁を楽しむ1年だったそう。

他にも掛川市の杉浦清司元メダカ・静岡市の池田恵一メダカ、浜松市の山崎敏明元メダカなど、みんな忘れずにお便りしてくれて嬉しい限り。めだかの学校で参加している全国まちづくり交流会で繋がった方々からも。

●豊田市足助町で「両口屋」を営む佐久間章郎さん。今年9月、富山の全国交流会でお会いできるのを楽しみにしています、と。

●北海道の水口正之さんは、めだかの学校に入学希望とか。通信教育もあり?

●北海道オホーツク寒気団の御髭のダンディな船木耕二さん。人生を懐かしく振り返り、「分らない」と言葉に出して言う自分を心地良く感じている。この世の心理とは深い深いところにある、私に分らないことがたくさんあるのは当然の事と漸く気付く事が出来ました。分がなくなるといいと自分に言える事が自分の時間をどれ程穏やかにしてくれただ事か。ほんの少しですが、身すまひ、居すまひの整理が出来たのかなと思っています。と、深いお言葉。メダカの便りをいつも楽しみにしてくれていると嬉しいお言葉も。

●飯田市の元職員で現在、県議会議員の小嶋康晴さんは、信州飯田の発展に今年も全力で。と力強い抱負を。バラさんとは三遠南信の活動を一緒に盛り上げた人。

●松阪市の坂梨律子メダカ。松阪もめんの鳥の絵で。昨年は松阪でお会いすることができ、嬉しいひとときでした、だって。

●神奈川県秦野市の永田勝洋・和子さん。全国まちづくり交流会ではいつも一緒。メダカのメンバーは楽しい人ばかりですね。北海道の蘭越町といい、昨年の松阪市といい、大変お世話になりました。

自戒・回想悲喜交々ですが、皆さんお元気でご無事なお便りがなにより。インターネットの普及で年賀状を書く人も減ってきたと毎年報道されますが、こうした生きの一言ならでは。年に一度くらいはアナログで筆を持ってハガキに向かい、その先の相手の事に想いを馳せるのもいいものです。みなさん今年もどうぞよろしくお願ひします。

《新入生紹介》

●磐田市の小栗華メダカ。いわた若者ネットワークで、磐田文化振興会理事で、若者代表として活躍。

●浜松市の小澤和香子メダカ。元旅行添乗員。酵母の研究、料理好き、料亭で修行中とか。給食当番に強力な助っ人?かな。

●森町の岩瀬進哉メダカ。森町の地域おこし協力隊。建築士だって。95回めだかの学校では用務員に。

××× ×××  
今回は新春早々のバラメダカの体調不良で急遽、大島メダカが代筆を取りました。多くの方のお便りを掲載しようと短文の切り取りで、皆様の真意を汲みきれないご紹介になってしまいました。何卒ご容赦下さい。

息とは、まず、吸うのではなく、吐くこと  
昨年11月26・27日、第23回の「町並みと蔵展」で、テーマをアメリカに禅を広めた男「鈴木俊隆と森の町」として禅にスポットを当てていただいた。その時に出会ったのが俊隆老師の著書「禅マインド、ビギナーズ・マインドⅡ」であった。師は25歳で森町の蔵雲院住職に就任し、その後55歳で渡米、サンフランシスコ桑港寺住職となり。禅センター設立、ステープ・ジョブズなど数多くのアメリカ人に大きな影響を与えたといわれています。本の中で老師は、あるとき弟子たちと川に遊びに行き溺れてしまった。その時、なんとか助けてもらったが、息を吸おうと必死にもがいて沢山の水を飲んでしまった。息は吸うものではなく吐くもので、吐いた息は宇宙と一体となり、あとは、自然に入ってくるものである。この師の言葉と出会った時、自分も毎月第3日曜日の朝、大洞院で坐禅をさせてもらっているが、この「吐くこと」で坐禅が全く変わってきた。老師も68歳で癌に侵され禅センターで息を静かに吐きながら遷化されたそうである。自分もせめて「めだかの学校」では皆さんの話を、息を吐きながら心静かに聴きたいものである。  
(榊原淑友メダカ)

### 《めだか春秋》

※お知らせ  
めだか春秋はリレー形式で。文字数は18文字37行以内。名前・タイトル(見出し)含む。行数以内で写真も可。第96回めだか春秋は、所沢市の木村智子メダカ。お楽しみに。

めだか春秋はリレー形式で。文字数は18文字37行以内。名前・タイトル(見出し)含む。行数以内で写真も可。第96回めだか春秋は、所沢市の木村智子メダカ。お楽しみに。

# トピックス

## ■だれが生徒か事務局か？

1月下旬、パラメダカよりTELあり、「ちよっと体調崩しちゃってさあ、よく病院から出てきたよ。」話の内容を聞くと、「これちよっと」じやありませんよ。しばらくの間は体を大切にしてくださいね！ということ、今回号の「トピックス」&「事務局だより」のコーナーは代筆です。いつも楽しく読ませてもらっている「めだかの学校だより」ですが、いざ自分が書くとなると「さあ大変」、前回のことを書こうとしても、「あれ、誰だったかやあ？」「どんな話だったか？」たった2か月前のことなのにもうすでに記憶が薄れてきてしまっていて、写真を見てなかなか思い出せない状態。普段からあまり頭を使っていない証拠ですね。パラメダカの頭の中はたぶん「個人情報蓄積&識別能力」があつて、大勢の生徒たちの顔、形、性格や日頃の行い、めだかの学校20余年間の三役先生の経歴や話の内容などなどがインプットされているんでしょうね。このコーナーを書きながら、改めて毎回のめだかの学校を、漫然と出席している自分に気がつかされた次第です。次回のこのコーナー、次回は「あなた」が書く順番かも？

## ■事務局だより

早いもので、今回のめだかの学校は95回目の開校、年数にして足掛け24年ということになりますね。今から24年前、いったい何をしていたかな？最近のことは思い出せなくても4半世紀まえのことは意外に覚えて

外に覚えてい

当時は自分30歳代前半、静岡県の地域づくり団体「未来づくりネットワーク」(地域振興室)、その中の幹事団体として「めだかの学校」とともに「横須賀倶楽部」がその任を担っていました。全国各地で開催される「全国地域づくり研修会」への参加や、定期的に開催されていた会合などで、バラさんと一緒に頑張って頑張っていた頃です。岐阜県での開催の時、当時の担当者と謀ごとをして「よし、全国大会を静岡県でやるよ」2年後には本場に焼津市を主催場にして全国大会を開催、また県が主体で静岡市内を会場に行われていた、つまらない(失礼)地域づくりのシンポジウムを、地域で&地域の団体が主になって開催しよう、第1回目はぜひ横須賀で、パラメダカと共同戦線を張り、ついに平成8年2月「おらんとこのおまつり・シンポジウムin遠州横須賀」の実現にこぎつけました。今思えば若さとパワーで動き回っていた頃です。

それから20余年、めだかの学校も発足当初からの顔ぶれも健在、またメンバーが入れ替わりながら、しぶとく続いています(笑)最近では新しい若い世代の参加も多くなり、その元氣な姿を見てみると頼もしい限りです。前回12月2日(金)「第94回めだかの学校」でも3名の若者の新入生が紹介され、頼もしい限りですね！

いつものように校歌斉唱、「めだかの学校は...」西川教頭先生の伴奏つきでした。お楽しみのお給食時間、鈴木一記メダカが丹精込めて育てた「棚田米」に紫イモを入



れたマールブルご飯、高級食材のえび辛、ジビエ料理の豚汁などなど、給食当番の皆さん、早い時間から出て準備をしてくださる、本当にありがとうございます。

「腹が減っては授業が出来ぬ」おなかを満たされたところで、大久保陽校長先生のありがたい訓話、本職(?)の包丁研ぎのお話に始まり、趣味(?)の合唱まで、幅広い話題を提供していただきました。

そしてバラエティにとんだ3人の先生方、テーマは「好きなことっておもしろい」、松田慎也先生は「頼まれごととはためされごと」、山中幸子先生は池田先生に変わっての代理の授業でしたが、当たり前のようにつとめていただきました。星野直樹先生は「石に魅せられて?」それぞれの個性あふれる興味深いお話でした。

授業が終わると恒例の「年越し汁粉」大きなお餅が入ったお汁粉がふるまわれ、給食でおなか一杯食べた後でしたが、別腹で完食!「よいお年をお迎えくださいね」次回の三役発表、よろしくお願ひいたします。

最後はみんなで輪になって「今日の日はさようなら」を西川教頭先生の伴奏で大合唱、一人ひとり握手をして次回3月3日開校、第95回めだかの学校での再会を約束してお開きとなりました。さてさて95回も多彩な顔触れの三役と一言言を持つ3名の先生方、どんな授業になるのかは、出席してお楽しみ!皆さん元氣でお会いしましょうね!



■第24期の受け付けをしています  
第24期は、平成28年9月1日から、29年8月31日までです。毎年度継続手続きが必要です。まだ手続きがなされていない生徒がいます。もう一度対象者に申込書を同封しますが、手続きを済ませないと名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。新しく入校をされる方がいましたら、事務局までご連絡ください。資料と申込書を送ります。

■今回は:  
今回はパラメダカの代理で、大勢の皆さんのご協力のもと「めだかの学校だより」第95号の発行に至りました。記事集め、編集、校正、印刷、あて名書き、封筒入れ、発送etc本当にありがとうございます。そしてこういう作業を担っていてくれたパラメダカに、あらためて感謝の気持ちです。

■めだかの学校だよりの原稿を!  
次回の発行は、29年5月1日予定。締切りは、4月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、あなたの顔の見える情報をどんどん、手紙でFAXで電話で:待っています。メールの方は、  
《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》  
間瀬亮太090-5009-0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので一報を。)

■めだかの学校の事務局  
〒438-0105 静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL 0539-62-6691 (FAX同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話0538-89-7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯080-1612-9130

